平成30(2018)年「正覚寺報」10月号

◆ご　案　内

①仏教壮年会お聴聞の会10月7日(日)20時～

本格的な御法話が聞きたい、お聴聞がしたいとの念願に支えられて営んで参りました仏教壮年会恒例のお聴聞の会です。

私達がお導き戴いた領域は次の通りです。

お聴聞すれば、如来様のご本願の思し召しをお聞かせに与ります。その思し召しのままに私もまたお念仏してみたい思いに駈られ、称えれば直ちに私の上に如来様の大行が働き出して下さいます。称えれば直ちに如来様のお喚び声がわが耳を揺るがせわが胸底に届いて下さるのです。お喚び声に喚び覚まされるとき、誰の人も如来様の信心の智慧を賜っているのでありました。

②仏教婦人会例会10月16日(火)19時半～

仏婦月例会もその趣旨はお聴聞の会にあります。お聴聞を継続するうちに如来様のお育てに与るのです。皆様賑やかにお参り下さい。

③正覚寺報恩講10月27日(土)14時大逮夜、19時(お初夜)、10月28日(日)10時満日中

お客僧は、東近江市浄光寺尊住で行信教校のご講師でいらっしゃる藤澤信照師です。

◆報恩講をお迎えする

来る10月27日(土)大逮夜から翌28日(日)の満日中まで正覚寺報恩講をお勤め致します。

お客僧には、東近江市浄光寺より同寺の尊住で行信教校のご講師でいらっしゃる藤澤信照師をお迎えいたします。

住職は、昨年御遠忌が終った直後、本年度のお客僧を画策致しておりました。

藤澤先生には「私どものようなお寺にはとてもおいで戴くことはできないでしょうね」とおそるおそる御電話をさせて戴きました。

御電話をお受けになったのは坊守様でいらっしゃいました。「そんなことはありませんよ」とおっしゃったかどうか、丁度そのとき鹿児島のご出身のお寺の報恩講にご出仕の先生に坊守様からご伝言が届けられたことでありました。

その日の夕刻の出来事でした。当院の電話の着信音が鳴り響きました。

それは、藤澤先生からの御電話だったのです。

「藤澤です。ただいま、近江八幡駅に下車したところです。来年の正覚寺様の報恩講には出講させて戴きます」と早速のご返事を戴いたのです。

どうやら、鹿児島から滋賀県にお帰りになるまでの車中で関連するご都合をひとつひとつ片付けて、当院へのお客僧としてのご出講を可能にして下さったご様子でありました。

まことにありがたいことであります。藤澤先生というのは、著名な布教使の藤澤量正先生が義理のお父上でいらっしゃいます。

◆来年八月に営む歓喜会のお客僧に京都明覚寺ご新発意の柱本　惇師をお迎え致します。

ご案内状をお送りしましたところ、しばらくして御返事を戴きました。当日は、御法話のご出講だけのご案内でしたのに、お手紙には

「少しはやく寄せて戴いてお内陣のお勤めにもご縁を結びたい」とおっしゃって戴いておりました。住職の慶びもそれはひとしおでありました。

そのご母堂が先の滋賀教区第 43 回親鸞聖人「讃仰の集い」で「こころを聴く」と題してソプラノ独唱で記念すべきひとときを楽しませて下さったご住職の柱本めぐみさんであります。

当日、仏婦の皆様方にお声を掛けてご一緒に参加できなかったことをどれだけ住職は悔やんだことでありましょうか。合掌。